

企業OBが経験を生かしてパソコン指導

特定非営利活動法人 あいてい塾ぐんま

高崎市



40年余、大手通信機器企業の第一線で活躍したOB仲間が、住民に向けたパソコン教室を開講。経験に裏打ちされた技術による指導は、わかりやすいと評判だ。



講習会の様子。メンバーが見回りながら声をかける



大きな画面に図を映して、丁寧に説明

●活動内容

IT機器の設計などを担当していた同じ企業の定年退職者9名で活動を開始。これまでに高崎市内の30の公民館や、前橋市の企業組合労協センター事業団やNHK文化センターなどで、パソコン講習会を開催してきた。

また、公民館の講座を終え、もっと学びたい人たちによるパソコンサークル、50件程の講師も務めている。

さらに、技術力と指導力が認められ、全国組織の「一般財団法人ニューメディア開発協会」より「シニア情報生活アドバイザー養成講座実施団体」に県内で唯一認定されている。この認定により、県や市との協働事業で高齢者向けのパソコン指導者を養成している。

常務理事の村田和夫さん(77)は、言う。「40年間世界を相手に設計をやってきたので、コンピュータのことを完全に理解しています。パソコンのトラブルがあっても、どのあたりの問題かわかります」。企業で培った豊富な知識と高い技術力が強みとなっている。

●事業を始めたきっかけ

活動は平成13年、9名でスタート。理事長の中司和雄さん(84)が、「自分の持っている技術や知識を社会に還元したい」との思いから、同じ企業で働いてきた仲間にも声をかけた。

最初は公民館にパソコン講習をさせてくれるよう頼んだが折り合いがつかず、何度も頼み込んだ末、ようやく実現。その講習の評判が良く、公民館の担当者が他の公民館に紹介してくれたことから活動は広がっていった。

公民館では、シニア向け入門講座が多く、パソコンの電源を入れることもできない受講者がいる。教えてもらう側に不安はあるだろうが、教えるのはかつて企業の第一線で活躍した経験豊富なベテラン。「先生が歳だから、教えるのがうまい」と冗談まじりに言われることもある。

現在メンバーは18名に増え、活動の幅も広がっている。十分な経験と、定年したが故のゆとりある時間を有効に使った、住民に役立つ有意義な活動となっている。



講習会はわかりやすいと評判だ



パソコンを習いたい、と受講する主婦も多い

●工夫している点・特長

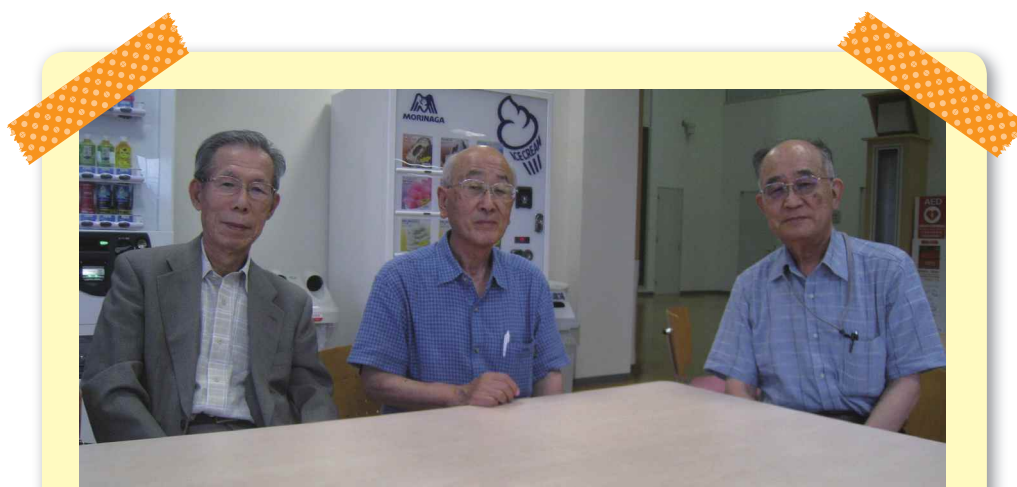
通常の講習会の他に、前橋市と高崎市で月に1回ずつ「Q & Aサロン」を開催。こちらは、サークルに入会していなくても参加できる質問会だ。サークルではなかなかパソコンを使えるようにならない人や、「町内会の会計になったが、パソコンがわからない」といった人がやって来る。

講習会で使うテキストはすべてメンバーが作成する。「パソコンの基本システムが変わっていくので追いついていくのが大変ですが、テキストは、本当にその通りに動くのか、初心者にわかりやすいのかを検証しな

ければなりません。作るときはパソコンを2台置いて、片方で検証しながら別の1台で作っています」と、村田さん。

メンバーの追加は、同じ企業の退職者から行う。設計を担当していた人で、「この人ならばできるだろう」という人に声をかけている。

「40年間やってきたことなので、特に負担にはならないし、家にいたらぼーっとしているでしょうが、自分も勉強になるから老化防止にも良いんですよ」と村田さんは語る。



〈やりがい・楽しみ〉

「サークルで、生徒と親しくなるなど交流も楽しい。新しいことを教えて「今日は良かった」と言われるとやりがいを感じます。Q & Aサロンも「来て、わからなかったことがわかった」と喜んでもらえるとうれしいです」と、村田さん(写

真右)。

また「コンピュータはどんどん進化する。その新技術に出会えるのも楽しいです」と、副理事長の田中謙二さん(写真中央)といった、技術者ならではのやりがいもあるようだ。

基礎データ

☎027-343-0021

あいてい塾ぐんま

事業開始時期/平成13年

主な活動/

ICT(情報通信技術)を広めるためのパソコン講習、講師養成

人数・年齢/

18名 60~80代

